

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和4年度第2回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和4年8月25日(木) 午後1時～3時
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治（リモート）、鈴木正敏、松尾寛子 閑念勝代、
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	高田祐久子
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育創造部長 足立英則 学校教育課主幹兼教育研究室室長 衣川正昭 幼保連携課長兼幼児教育センター長 長井恵美 幼保連携課主査 山下秀華 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 幼保連携課（幼児教育センター）小東さゆり
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第1回視察訪問について (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いする。
委員長	3 (1) 第1回視察訪問について
事務局	事務局説明

各委員	<p>資料1「各園の今年度目標、特色（まとめ）」 資料2「令和4年度自己評価資料（各園）」 各園の訪問時の写真をパワーポイントで共有</p> <p>～各園の今年度目標や取組状況、感想・意見 保育内容～</p> <p>園①</p> <p>保育者が主導権を握って保育を進めているという課題を捉え、今年度は『見守る』をテーマに、保育環境の工夫・温かな言葉がけ等、子ども主体の保育を目指している、との目標を聞き、認定こども園教育・保育要領の理解をより進めていこうという意識が向上していると感じた。</p> <p>3歳児のままごとコーナーでは、発達段階に合ったイメージが膨らむおもちゃの準備と保育者のかかわり方について、具体的に助言した。</p> <p>3・4歳児の保育室が、今年度2クラス分のスペースを活用しているため、保育室の広さ、クラスの人数の多さで落ち着かない現状だった。生活（給食や昼寝等）に必要なスペースの確保、物の配置や遊びのコーナー作り等について話をした。</p> <p>5歳児一人1台の机について、今年度模索しながら使っていくということだが、固定化せず移動させたり、制作する時のテーブルのように4つを合体させたりする等、柔軟な活用を望む。</p> <p>掲示物が大人目線のものが多く、保育者が覚書として貼ってあるものも混在していた。場所をまとめ、園児の目線には、園児の為の掲示のみにした方がいいことも伝えた。</p> <p>園②</p> <p>コロナ禍で参観する機会がなかなか取れない状況の中、家庭や地域に情報発信を進めていけることを目標とし、ドキュメンテーション等を積極的に活用・工夫する姿が見られた。</p> <p>2歳児では、保育者はままごと遊びが大切だと理解されているが、ままごと遊びをすることが目的になっていたのもので、子ども達がどんな遊びのイメージをもち、どんな成長につながるのかを助言した。</p> <p>3歳児では、空間の使い方が難しい保育室だが、これまでの助言から毎年改善し、訪問当日も工夫した遊びが積極的に行われていた。子どもが主体となって、自分達のイメージをもって遊ぶ力をつ</p>
-----	--

けていくということを意識された保育だった。

『保育室の見せ合い』を提案した。保育室にあるおもちゃやものの配置・保育環境の差について考えた時、他の保育室を意識して見ると、子どもの発達理解につながり、保育者の刺激・よりよい保育を進めていく為の環境のアイデアとなるのではと考える。

園③

基本的に積極的に園庭で遊んでいた。子どもたちの遊びを豊かに、主体的な活動を進めていく視点を持ち、園庭やテラスの環境をどう工夫していくかを保育者が意識し、とても大切にされていた。

3歳児では、色々なものを水に浮かべることを楽しんでいた。ぬいぐるみを浮かべたいという子どもたちのアイデアに対して、担任は子どもたちの気持ちを大切にし、子と一緒に考えていた。ぬいぐるみ以外にも、子どもたちが試して遊ぶ場面が多く見られた。

4歳児では、水の流れるコースを作ろうと雨どいを使って試行錯誤する中で、4歳なりの協働性などが発揮されていた。

5歳児では、10の姿を踏まえながら保育を進め、振り返りの場面や見通しをもたせようとする場面では、対話の在り方を重視しながら、子どもの主体性が担保されていた。5領域や10の姿に当てはめて捉えていく力を身に付ける為、今日の保育ではどうだったかを担任が振り返ったり、意味づけたりする機会をもてるよう話をした。

遊びに入れない子や、発達の特性のある子に対して、『みんなが同じ遊び、同じようにする』必要はなく、『同じような場で遊んでいたとしても違う楽しみ方がある』という、今の時代の言葉でいうと、個別最適化の学びという観点に触れて話をした。

園④

各保育者が、保育の工夫、何とかしたいという思いがよく伝わってきた。

2歳児では、家の仕切りや机が置かれていて、支援の必要な子もいるが、そういう子がしっかり落ち着いて遊べるようにと環境の工夫がなされていた。

0歳児1歳児では、おもちゃの種類をもう少し出して、コーナー環境が充実したらいいかと思言助言した。

4歳児の制作活動（七夕の織姫・彦星作り）について、クラスの園児数が多い中、表現力の幼い子や乏しい子がいて、一斉活動です

ることの意味をどう考えるかが議論になった。一斉だと一度に短時間で完成できるが、能力格差の部分・一人一人が個別最適な形で伸びる余地という視点から考えると、多少時間がかかっても小グループの活動も必要である。その為には、保育室に廃材や制作スペース、グループで活動できるような環境は必要だと提案をした。

園⑤

2歳児では、走ったりぶつかったりする子もいるので、コーナー作りを考えようという話をした。どうしても、0～2歳児の広い空間環境の使いづらさがある。

3歳児では、おもちゃが壁沿いに置いてあり、立体的な場が設定されてなかったのが、実際にままごとセットを横から縦に移動し、囲うようにベンチやテーブルを設置すると、子どもが集まり、遊びが展開し始めた。更に反対側で段ボールスロープを作ると、車を転がす遊びも始まった。実際にコーナー作りを実演することで子どもたちが集中して遊ぶ様子を担任に見てもらえたことが収穫だった。

4歳児では、保育室が広くなり、隠れる場所・安心できる居場所がなかったのが、棚や段ボール等を活用して作っていくことを提案した。カプラとか紙コップ等夢中に遊べる素材についても助言したので、発展を期待する。

5歳児では、廃材を使った遊びが展開し、以前より、遊びが中心になってきつつある。一人一人の机はあるが、コーナーができている部分や、小グループ・集団での話し合い活動を少しずつ進められている。『主体的な』『子どものために』保育が徐々に進んでいる。

園⑥

人員の入れ替わりがあり大変さはありそうだが、保育者それぞれがもっている力により整えられた保育環境が保たれていた。

2歳児では、次への活動の移行時、どうしても早くできた子が待つ状態が多く、我慢できない子もいた。ゆるやかな担当制、個人差に応じた生活の流れの為、少し分散してはどうかと提案した。

3歳児では、ままごとコーナーの環境が整い、保育者の丁寧なかわりがなされていた。

4歳児では、イメージを膨らませて遊んでいたが既成のおもちゃが多く、作って遊ぶ、作ったものに移行するよう、一緒に考えていった。

5歳児では、夕涼み会の準備で子ども達が一人一人工夫してお化けを作っていた。4歳児がそれを見て、来年は自分達でもできるという期待をもつのではないか。ただ時間がない様子で、じっくり取り組んだり、グループで話し合いが深まったりするいい機会だが、少しもったいないなと感じた。

園⑦

0・1歳児では、生活と遊びのスペースがうまく区切られており、前回訪問より過ごしやすい保育室になっていた。棚の有効活用（子どもがおもちゃを自分で選べる）、日当たりのよい保育室を生かした保育環境（子どもの目線の先の光や動き）、発達段階を理解したおもちゃ作り（仕切りのついたてを動かす子は、『押す・ひっぱる』遊びがしたい）等、助言した。

3歳児ではリズム体操が保育者主導で進められており、リズム体操の見本となる方法が厳しい指導と感じられた。子どもが楽しんでできる方法にアレンジしていく、例えば、子どもたちがピアノの音を聞いて行動する、できてない注意よりできているところを認めていく方がよいと考える。

4歳児では、保育環境の工夫が多く見られた。その一つが机の上に置く座席表で、マグネットが取り外しできるようになっていた。多くの園は机やいすの席は、固定・自由のどちらかで、固定は自由度がなく、自由は保育者の意図した保育や配慮ができにくい。担任が、他園の座席表を参考に、自分なりの工夫を加えたそうで、是非、他園でも取り入れてほしい。

5歳児では、1年間の見通しをもった保育のプログラムを保育室に提示してあった。今月は何をするという目当てにもなり、子どもからも分かりやすい。ドッジボールをしていたが、言葉がけの仕方は、少し工夫が必要だと感じた。

園⑧

0・1歳児では、保育室の使い方の工夫が見られ、前回より棚や区切り等の活用が良くなっていた。『押す・引っ張る』おもちゃを用意してはと助言した。

2歳児では、遊びの中でうろうろする子について、遊びに集中できない・好きな遊びがないというマイナスな行為だけで捉えるのではなく、『色々見て試したい・自分で決めたい』という2歳児の発

達段階を理解し、その子に応じて支援できるよう助言した。

3歳児では、おもちゃの数の増減について、保育室にあるおもちゃを全部出すのではなく、子どもたちの発達や興味に応じる、また欠席人数によって変更していけるよう話をした。サーキット遊びでは、子どもたちの楽しむ・集中する姿が見られた。同じ動きの繰り返しだったので、子どもの様子を見て、動きの変化をつける実演もした。

4歳児では、一人で遊ぶ人形・ブロック等が多かったので、もっと手先を使うおもちゃやイメージを膨らませて作る制作コーナーについて助言した。

5歳児では、個人差のあるクラスなので、保育者の目安（基準）になる子を作って保育していくことを提案した。もちろん、早く進む子やゆっくり・配慮の必要な子がいるが、基準があることで、保育者の進め方や支援の視点がはっきりし、サポートが必要な子にもフォローしやすいと伝えた。

園⑨

0・1歳児では、おもちゃの取り合いについて、個数を考えて準備し必要に応じて増減すること、また、子どもの目線の高さのおもちゃの充実を図ること、体を動かすことができるスペースや『押す・引っ張る』保育環境を準備すること等、助言した。

2歳児では、設定以外のおもちゃが押入れにしまっている状態だったので、子どもが自由に出せるよう提案をした。保育室におもちゃが出ていると触る子がいるということだが、『主体性』という視点で考えると、十分に（自由に）触る経験の必要性や2～3か月位は触りたい子がいるが徐々に学んでいくので、保育者の我慢と配慮（使わない時の目印や布をかぶせる等）が必要と伝えた。

3歳児では、元気な子が多いクラスなので、静と動のバランスを考えること、ままごとコーナーの充実、ブロックが多いので、もう少し指先を使うようなおもちゃの準備等具体的に伝えた。

4歳児では、サーキット遊び後の話し合いで、座る位置・座らせる場所の配置を考えること、また、保育者が主となる言葉や指示が多かったので、保育方法について助言した。

5歳児では、子ども達の好きな遊びの中で、科学につながる遊びをしていた。当日は、泡遊びだったが、色々な可能性の広がりを感じられる様子だった。

～全体を通して～

いずれの園も1クール目から2クール目に入っていることもあり、この数年で教育・保育の質がどんどん向上し、初回の訪問よりも、保育者が少しずつ余力をもちながら進められるようになってきている。

どの園も、子どもたちの遊びの空間、生活の空間について配慮・工夫がなされていた。小学校との違い、いつもの生活空間の配置を変えることで、活動の内容を切り替えるという発想が良い仕掛けとなっていた。自然に子どもたちが動いていたのも、その仕掛けが良い作用となっていたのだろう。のびのびと、生き生きと活動する姿がたくさん見られた。

～欠席委員からの意見～

今回、初めて色々な園を視察して、0～5歳児までの活動を見ることができた。1年生の様子を思い浮かべながら、参観することで、一つ一つの活動が途切れることなく連続していることを再確認できた。そこで、1年生に入学してきた時に、小学校では0のスタートとして接するのではなく、0歳から連続性を意識しながら指導にあたる大切さを強く感じた。

各園のドキュメンテーションを見ると、1年生が園でどのような経験をして入学してくるのか、担任はよく分かる。生活科や学活の中で、園で経験してきたことを思い起こすような声掛けをすることで、より生き生きとした活動になるのではないか。子どもたちは、経験を問われたり想起したりすることで、自信をもって取り組んだり、意欲的に取り組んだりできる。

サーキット遊び等、体を刺激し、目と手・体の協応を意識した遊びがよく見られた。小学校体育への動きも多いので、保育者に小学校の体育内容を見てもらうことで、今の遊びの大切さや、今後どのようにつながっていくか等想像したりできるのではないか。また、ボディマップ（ボディーマッピング）を意識した保育者との接触や動きで、姿勢の保持へとつながると感じた。

園小の連携を強くする為にも、お互いの学びを知ることがとても大切である。上記にドキュメンテーションのことを書いたが、各園の年間カリキュラムを確認する機会も作りたかった。

事務局	<p>～特別支援内容～</p> <p>ここ何年か継続的に見ているが、支援が必要な園児も多いが、コロナ禍もあり発達特性から集団不適應を起こしているのが気になっている。本来大人も子どもも全員、色々な特性をもっているが、その特性によって生活に困難さを極めている場合は対処が必要で、声かけや提示の仕方によって大丈夫になる園児もいる。ただ、クラス運営の中でしんどい子がいることで、本来落ち着いている子も、一緒にしんどくなる。どちらかという特性＋クラス運営という課題も見られた。</p> <p>オープンで広い空間の保育室は、音の刺激が強く入るので、配慮がなかなか難しい。視覚刺激に関しては、保育者の環境への配慮が徐々になされてきている。</p> <p>丁寧なかかわりをされているが故に、各園の相談件数が増加している。保育者が過敏に反応しすぎているか気になる。</p> <p>最後に、さまざまな障害のある園児を受け入れている園が増える中、重度の知的障害の園児に対し、個別プログラム対応の必要性が出てきている。今回の訪問で、もともと療育の仕事をしていた担当保育者の関わり方や環境整備のアイデアで、園児の個別学習が進み落ち着いてきたというケースを見ることができた。どうしてもサブの保育者や、経験値の少ない保育者が個別対応担当者になりがちだが、支援の必要な園児への理解や経験値がある人をどう確保するか、また、担任とともに、いかに育てていくかという課題があるように感じた。</p> <p>(学校教育課から)</p> <p>園小の接続に向けてという観点では、先ほどの委員長からの助言にあった『遊ぶことが目的ではなく、この遊びから何を育てるのか』という部分は小中学校も同じであると感じた。</p> <p>園小接続カリキュラムの調査研究の第1回委員会では、中学校区ごとに園小の教諭が子どもの実情について話し合う機会をもち、園と小がお互いをまず知ることが第1歩という助言をいただいた。今年度、園から小の参観（進学先の1年生の授業の参観）、小から園への交流訪問（夏季休業期間を利用して小学校教諭が校区の子ども園を参観）を実施し、お互い交流した時の意見を第2回委員会に、もち寄ることで、『園でできること、小学校でできること』を考え『顔の見える関係』からのスタートをしている。</p>
-----	--

	<p>また、西脇市の小中一貫教育会議の中でも、0歳から15歳までの教育を貫くのは新たなものではなく、就学前に育みたい10の姿をベース・土台にして考えていかななくてはならないのではないかという意見を多くいただいた。園小の接続の必要性が市全体にも伝わりつつあると感じている。</p>
委員	<p>～意見交換 今年度の変更点について～</p> <p>保育内容と特別支援の訪問が違う日程の方が、時間的余裕もあり、保育者の対応もゆったりしているように感じた。そして、保育者の頑張りたいこと、園の目標の記入によって、保育者がどんな思いをもって日々保育をしているのか、園長がどんな思いを持っているのかを理解することができ、その思いを汲み取って支援・助言をしていくのに役に立った。</p>
委員	<p>園全体の雰囲気がよくなってくる中で、頑張りたいところやいいところが出るようになってきている。それが市全体として何か形になり、資料6「事例集案（保育環境いいところ集）」のようなものが可能になってきたのが嬉しい。</p>
委員	<p>『今年度頑張りたいこと』の内容について、保育者によって差が見られたが、自分を振り返る良いきっかけになったのではないかな。また、本当にどの園もよくなってきていることはいいのだが、園全体がぐっとレベルアップしている中で、少し足踏みしている保育者もいるように感じた。</p>
委員	<p>日程としては、保育内容と特別支援について園に希望をとったことにより、園の時間的な余裕が見られた。また、特別支援では、参観前にまず保育者に子どものしんどさへの捉え方を聞き、参観、その後、面談や相談をする新たな形態をとることで、保育者としっかり話し合いをする時間を確保できた。私は、この視察訪問を何年か経験し、幼児教育（各園の保育内容）について少しずつ理解できてきたが、初めてのコーディネーターが特別支援だけの視点で視察訪問を行うと、幼児教育の視点やクラス運営としての課題等について分からないことが多い。その時には、幼児教育センターが間に入ってカバーしていただきたい。</p>

委員長	次に資料3・4について
事務局	事務局説明 資料3「年間スケジュール（追加）」 資料4「第2回視察訪問時程案」 コロナ禍での今後の視察訪問のあり方について。
委員長	資料4に関して、確かに自己評価の2～9（教育課程の編成、安全管理・防災教育、家庭・地域との連携、職員の資質の向上、特別支援教育、園小の連携、関係者評価の取り組み）について園からの説明は大事である。これまで視察訪問では、時間が取れていないが、園からの説明によって自覚、再確認されることがあるので資料4はこれでいいと考える。他の委員はいかがか。
委員	（同意）
事務局	コロナ禍での視察訪問について、私共が実際に訪問する時期に罹患や濃厚接触者となってしまうことも考え、事前に検討しておくべきである。意見を伺いたい。
委員	職場にも外にも行けないという状況になるので、万が一感染してしまった場合、どうするかというのはつきまとうところではある。迷惑をかけてしまうという心配はあるが、社会は動いているので、自己防衛しながら進むしかないのではないか。
委員	元気で隔離が必要になった時、リモートでの相談が可能なのか、事前に準備できれば可能だが、直前だと大変である。日程を変更するのか、できることで対策をとりたい。
委員長	単純な定義ではあるが、委員が訪問の時期に罹患した時は、日程の変更をする。次に、無症状だが罹患し自宅療養・自宅で待機している状況や、濃厚接触者の定義で自分は元気だが身動きが取れない場合には、リモートでの対応も検討する。まずは日程変更を最優先で考え、事務局で調整をお願いしたい。

事務局	<p>日程変更で各園調整する、調整がつかない場合はリモートも検討する。2回目視察の日程がかなり過密なので、できるだけ感染対策をしながら園の方に訪問できる方向でいくということによいか。</p> <p>(同意)</p>
委員長	協議事項2、今年度の事業の評価報告について
事務局	<p>事務局説明</p> <p>資料5「自己評価報告書の流れ(令和3年度参考)」</p> <p>資料6「事例集案(保育環境いいところ集)」</p>
委員長	<p>資料5について、令和4年度の報告に向けて変更していく必要があるか。昨年度の段階で記入のポイントを結構考え、ある程度方向性がうまくいっている。昨年同様、基本的には肯定的に伸びてきている所を書きながら、少しだけ課題になるところを付け加えていくということによいか。</p>
委員	記入ポイントも、このままの方向でよい。
委員長	今年度、各園の目標をどのように報告書に入れるのかについて、委員の意見を求めているとの認識によいか。
事務局	はい。
委員長	各園の目標が資料1にあるが、今年度せつかく園から記入や当日説明をいただいたので、それをどのように活かしていくか。
委員	私たちがすることは変わらないが、公表の時に園からのねらいや理念がある。そこに評価ではないけれど委員コメントがあり、照らし合わせながら読めるのがいいのではないか。
委員	担任の頑張りたいところは、訪問で確認。文章として残していくものについては、園からの目標に回答するという形がいいと考える。
委員長	それでは園の目標に関してのコメントを一言、二言、どういう書

	<p>きぶりがいいかはまたの協議として、何らかの形でコメントを入れるということで対応したい。</p>
	<p>3 その他について</p>
事務局	<p>事務局説明 資料7「令和3年度西脇市認定こども園保護者アンケート集計結果について」</p>
委員長	<p>アンケートについては次年度も継続したらいいのではないかと考える。次年度継続するにあたって、保育現場や保護者からの反応や意見等、事務局で何か情報を把握しているか。</p>
事務局	<p>アンケートの結果について、公表前にまず保育協会の方に協議をかけた。アンケート結果に対しての意見はなかったので、来年度も引き続きアンケートはしたいと伝えている。保護者からの反応や意見も、今の所私どもの方に届いておらず、できればもう1年同じ内容項目で実施したいと考えている。</p>
委員長	<p>他の委員のご意見は。次年度も継続して同じ項目で行うでよいか</p>
委員	<p>(同意)</p>
委員長	<p>それではもう一つ、市内共通カリキュラムについて。説明をお願いします。</p>
事務局	<p>市内共通カリキュラムについて、昨年12月に行われた意見交換会でカリキュラムの改訂、10の姿を加えるという提案があり、今後の見通しとして、各委員の御意見を聞きたい。</p>
委員長	<p>まず改訂になると、市内共通カリキュラムの冊子はビジュアル化しているの、それを10の姿にバージョンアップしていくということが考えられる。先ほど学校教育課から小中連携の話があったが、10の姿が小・中へとつながっていくということを思うと、ビジュアル化カリキュラム+年長から10の姿へシフト、接続時期を意識したものを、作っていけばいいのではないかと。全面改訂の必要はないと</p>

委員	<p>考える。</p> <p>このカリキュラムを検討する時に、各園の代表保育者を集めて、日数をかけて進めていった記憶がある。全園集まって考えたので、西脇市全体の共通理解は図られているのではないかと考える。私も、全面改訂の必要はないと考える。改訂に向けてどのような組織がいいのかについては、もう少し考えたい。</p>
事務局	<p>前は、1から作り上げたことがよかったと思っているが、今回については、同じように作り上げる余裕が園にあるかと考える。委員の御意見も聞きながら、ある程度こちらで作成してから園へおろすという方法も視野に入れていたので、御意見を伺った。早急な改訂ではないので、次回、再度御協議いただきたい。</p>
委員長	<p>確かに前は、ゼロベースから全員で作っていく所に労力をかけたが、今の現場にその余力は難しいかと思う。私の考える方向性としては、事務局でたたき台になるものを作り、それを踏まえて、各園の主幹・副主幹保育者が集まり、自園に当てはめて検討・協議する。たたき台は9割位のイメージで、部分改訂として現場の意見を聞く内容でいいのではないかと思う。事務局に負担はかかるが、たたき台を作るのがベストではないか。次回に再度協議、他に意見やアイデアがあれば、出していくということで、いかがか。</p>
事務局	<p>委員長から聞いた形で考えていく。また、次回、御意見を伺いながら日程やスケジュール等決めていきたいと思う。</p>
委員長	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返りする。</p>
	<p>4 次回開催予定</p>
事務局	<p>次回の会議は、1月30日（月）に予定している。内容については、第2回視察訪問の報告について、評価報告書の作成等について、協議をいただきたいと思っている。</p>
事務局	<p>閉会の前に教育創造部長、足立よりご挨拶申し上げます。</p>

部長	あいさつ
事務局	5 閉会 以上をもって、本日の会議を終了する。